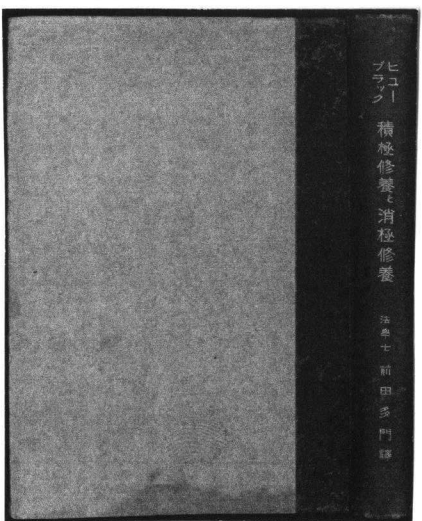


前田多門 まへだ たもん 政治家。明治十七年五月十一日大阪生れ、昭和二十七年六月四日歿（八八四一八九二）。明治四十二年東京帝國大學法科大學獨  
法科卒。内務省を経て東京市第三助役となり市政調査會を創設。昭和  
二年東京朝日新聞社に入り論說委員、十二年浪社としてニューヨーク日  
本文化會館館長となるも、開戦により交換船で歸國。爾後新潟縣知事、  
書院院議員等々歴任。終戦直後文相就任もハム臆病放し遭ひ辭任。解除  
後の活動は幅廣く、社會制度審議會、日本ユネスコ國內委員會、日本  
ILLO協會等の會長を務めた。フランス文學者前田陽一の父。

夙心、ヒュー、ブラックス著『積極修養と消極修養』（大正三年四月）  
十五頁實業之日本社）の譯書がある他、『國際労働』（昭和二年八月  
十日岩波書店）、『一票の力』（昭和十年六月十五日選挙禁止同盟會）、  
『新渡戸博士追憶集』（高木八尺共編、昭和十一年十一月）二十五頁田  
島道法刊）、『アマリカ人の日本把握』（昭和十五年十一月十日青年生  
社『新世代叢書』）、『山莊靜思』（昭和二十二年四月）二十頁初田書  
店）、『集會へ行くと』・私はなぜ友會に入ったか』（レオナード・  
S・ケンワシー合著、昭和二十八年十一月十五日日本基督教友會）等  
の著書あり。歿後『前田多門』その文・その人』（昭和二十八年六月  
四日堀切善次郎刊行代表）出版。



ヒュー、ブラックス 積極修養と消極修養 法典七 前田多門譯